令和３年８月 30 日発刊(21710)

海の情報　水試だより

http://www.fklab.fukui.fukui.jp/ss/

第 70 号

福井県水産試験場
TEL:0770(26)1331
FAX:0770(26)1379
suisi@pref.fukui.lg.jp

〔海の状況（7／16～8／15）〕

・小川地先の表面水温…　期間を通じて神子平年よりはなはだ高め（平年差+1.5 ℃～）で推移したが、8/11 以降は神子平年並み（平年差±0.5 ℃）で推移した。（図 1）
※神子平年は、1988 年～2017 年の神子地先の平均値

・米ノ地先の表面水温…　期間を通じて平年よりやや高め（平年差+0.5 ℃～+1.0 ℃）から平年よりはなはだ高め（平年差+1.5 ℃～）で推移したが、8/10 以降は平年並みから平年よりはなはだ低め（平年差 ～−1.5 ℃）で推移した。（図 2）

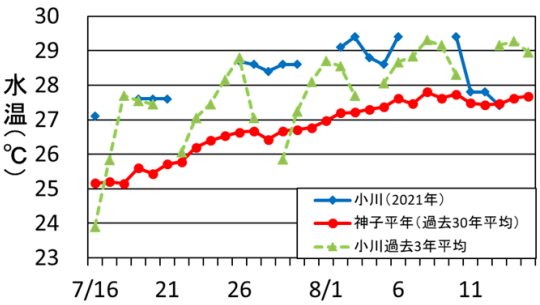

図1　若狭町小川地先における表面水温の推移

※小川過去3年平均は2018年～2020年の小川地先の平均値であり、2年以上の水温データが揃った日のみ取り扱っている。

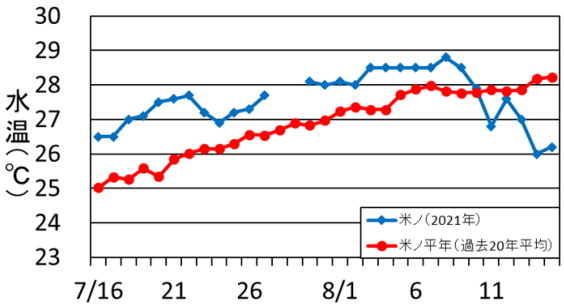

図2　越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況：7月〕

７月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層（水深０ m）では、若狭湾沿岸で 22 ℃～24 ℃と前年より低くなっていた。水深 50 m では、若狭湾沿岸で 18 ℃～20 ℃と前年同様であった。水深 100 m では、山陰・若狭沖冷水域が前年より離岸していた。水深 200 m では、若狭湾沖で４ ℃以下の範囲が前年より大きくなっていた。（図 3）

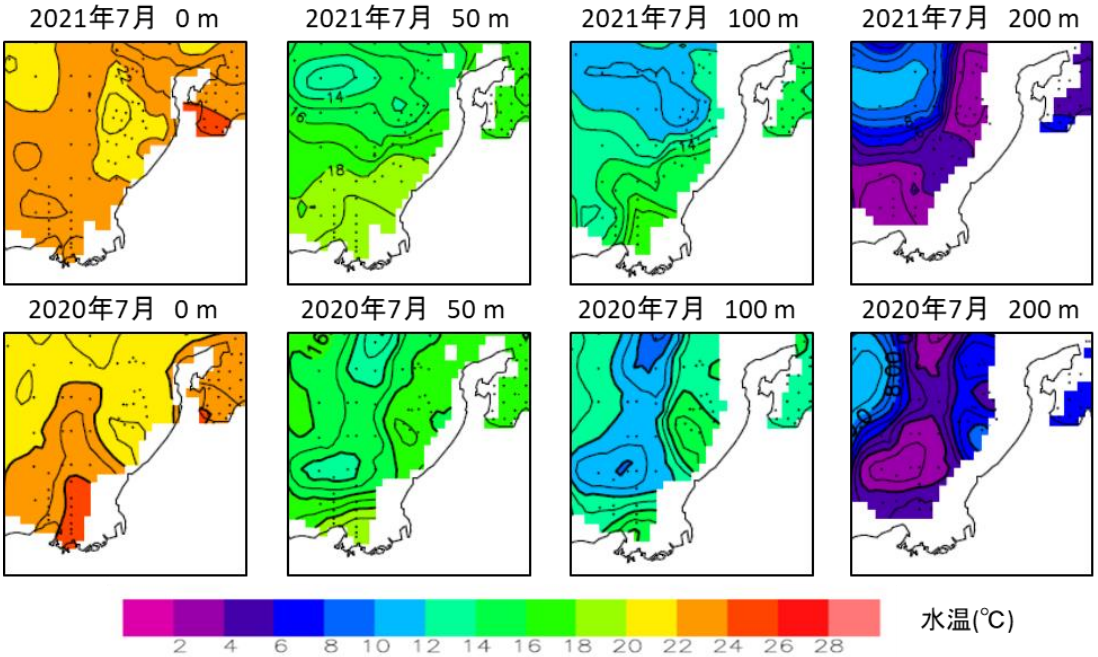

図３　若狭湾およびその周辺海域の水温分布図（水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋）

日本海における大型クラゲ情報

県内の広い範囲での出現が確認されており、茱崎定置、小樟定置、大島定置で100個以上のまとまった入網が確認されています。

また、8/30 現在、隠岐諸島周辺にやや濃密な分布があり、今後も県内定置網への入網が続くことや底曳網への入網が考えられますのでご注意ください。

（漁場環境グループ　岩﨑　俊祐）

〔県内の漁模様：7月〕

2021年7月の県内の総漁獲量は1,107 tで、前年同月を146 t上回った。

〔定置網〕

漁獲量は810 tで、前年同月を123 t上回った。ブリ類（ハマチ銘柄、ツバス銘柄）、シイラ等は下回ったが、サワラ、サバ類、カタクチイワシ等は上回った。

〔底びき網〕

漁獲量は18 tで、前年同月を0.9 t上回った。アカエビは下回ったが、ハタハタは上回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は279 tで、前年同月を22 t上回った。カワハギ類は下回ったが、スルメイカ、タコ類、ケンサキイカ等は上回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(7月)

定置網　(kg)

魚種名	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
マイワシ	262	5,932	2,930	−5,670	−2,669
カタクチイワシ	51,618	21,641	16,502	29,977	35,116
アジ類	54,084	74,144	86,423	−20,060	−32,339
サバ類	150,782	25,625	28,126	125,158	122,657
マグロ類	1,865	2,951	2,528	−1,086	−664
カツオ類	19,200	2,951	2,957	16,248	16,243
ブリ銘柄　計	64,362	252,881	251,565	−188,519	−187,203
（ブリ）	2,730	5,692	6,721	−2,961	−3,991
（ワラサ）	1,172	608	9,027	564	−7,855
（ハマチ）	32,351	172,664	114,254	−140,313	−81,903
（ツバス）	23,399	65,951	117,097	−42,552	−93,698
（アオコ）	4,709	7,966	4,466	−3,257	243
ヒラマサ	1,504	1,986	5,190	−482	−3,685
シイラ	29,974	88,449	24,071	−58,474	5,904
サワラ	328,399	117,787	193,085	210,612	135,314
トビウオ	20,029	35,691	54,646	−15,662	−34,617
マダイ	8,685	3,958	8,674	4,727	11
スズキ	5,691	4,006	8,464	1,685	−2,773
ヒラメ	713	717	1,173	−4	−459
カマス	1,960	3,121	5,774	−1,161	−3,814
スルメイカ	1,500	151	431	1,349	1,070
ケンサキイカ	38,257	24,974	18,044	13,283	20,213
タコ類	1,344	1,191	688	153	657
その他	30,136	19,220	22,813	10,916	7,323
合　計	810,367	687,376	734,084	122,991	76,283

底びき網　(kg)

魚種名	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
ハタハタ	1,515	830	706	685	809
アカエビ	14,561	15,835	21,924	−1,274	−7,363
その他	1,748	304	1,098	1,444	650
合　計	17,824	16,969	23,728	856	−5,904

釣り、延縄、さし網、その他の漁法　(kg)

魚種名	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
マダイ	816	355	1,573	461	−757
キダイ	7,831	6,996	5,974	835	1,857
アマダイ	4,176	3,160	3,907	1,015	269
スズキ	1,400	749	4,249	651	−2,849
メバル類	1,398	1,161	2,485	237	−1,087
カワハギ類	2,933	3,538	3,458	−605	−525
スルメイカ	140,444	133,462	38,640	6,982	101,804
ケンサキイカ	3,794	1,448	3,270	2,346	524
タコ類	34,957	30,897	38,968	4,060	−4,011
サザエ	3,323	2,561	2,410	762	913
アワビ類	4,665	4,204	2,643	461	2,023
バイガイ	49,555	49,261	37,878	294	11,677
その他	23,925	19,468	98,374	4,457	−74,449
合　計	279,217	257,260	243,828	21,957	35,389

全漁法　(kg)

魚種名	2021年	2020年	平年	前年差	平年差
合　計	1,107,409	961,605	1,001,640	145,804	105,769

※1　平年の値は2011−2020年の10年平均です。 ※2　（　）は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3　ニギスの平年値は2015−2020年の6年平均です

※4　カワハギ類、サザエ、アワビ類、バイガイの平年値は2014−2020年の7年平均です。

※5　数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

（漁獲状況…石川県：7月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：7月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：7月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：7月中旬～8月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。）

石川県…定置網…マイワシ5.8 t、サワラ類5.3 t、マアジ3.5 t、サバ3.3 t、フクラギ・コゾクラ2.4 t

京都府…定置網…サワラ類5.9 t、ブリ類1.5 t、マイワシ1.5 t、サバ類1.5 t、トビウオ1.0 t、マアジ0.9 t

兵庫県…定置網…マサバ141 kg、シロイカ57 kg、アジ47 kg、スズキ17 kg、トビウオ12 kg、ハマチ7 kg

鳥取県…まき網…マイワシ32.2 t、マアジ3.5 t、ウルメイワシ2.2 t、ブリ類2.0 t、マサバ1.4 t

（漁場環境グループ　長島　拓也）

ヒラメの放流効果調査と標識放流の実施について

標識放流魚を見かけましたら、水産試験場までご連絡をお願いします！

水産重要種であるヒラメは、資源量および漁獲量の増大を目的に日本各地で種苗放流が行われています。本県でも 1984 年から種苗放流が行われており、近年は毎年 20 万尾前後が放流されています。では、これら放流されたヒラメは、どのくらい漁獲されているのでしょうか。

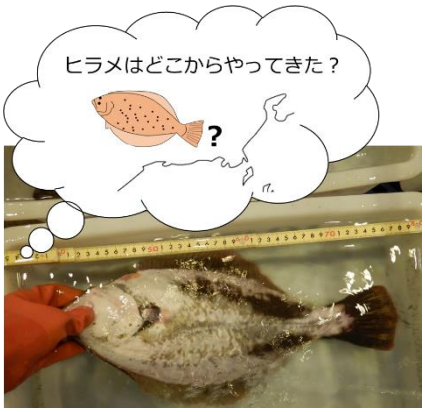

図１　市場調査の様子

水産試験場では、放流効果を把握するため市場調査と DNA 分析を実施しています（図 1）。市場調査では、国見、敦賀、高浜の 3 市場（図 2）で水揚げされたヒラメの全長測定と無眼側体色黒化に基づく混入率の算出を行っています。DNA 分析では、水揚げされた放流魚の DNA を調べ、栽培漁業センターの養成親魚と親子判別を行うことで、県内で放流されたものかどうかを調べています。その結果、**昨年漁獲されたヒラメのうち放流魚は 6.7%であり、放流魚の約 70%は県内で放流された**ものであると推定されました。

図２　市場調査および標識放流の実施場所

一方で、DNA 分析では県内のどこで放流したヒラメなのかは分かりません。そこで、ヒラメの放流効果や放流後の移動をより細かく調査するため、漁業者の皆さんと協力して標識放流も実施しています。

今年 8 月 18 日に、福井市越廼地先（図 2）で無眼側の胸鰭抜去した標識魚（図 3）を約 4,000 尾放流しました。**ヒラメが漁獲された場合には、無眼側の黒化の確認とあわせて、胸鰭の有無も確認していただき、発見の際はご連絡をお願いいたします。**

また、水産試験場では以前にアンカータグおよびパンチング標識（図 3）による標識放流を行っており、他府県でもヒレの一部をカットしたものやタグを装着したヒラメの放流が行われています。

最後になりましたが、標識放流の実施にあたっては嶺北地域栽培漁業推進協議会の皆様にご協力をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

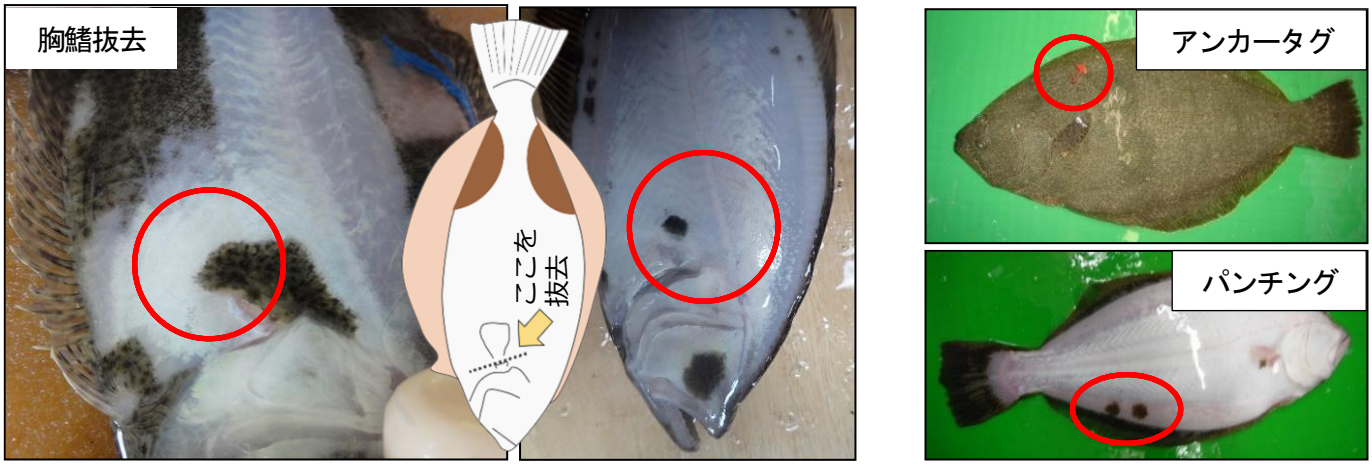

図３　胸鰭を抜去したヒラメ（左）とアンカータグ（右上）、パンチング（右下）を施したヒラメ

（漁業管理グループ　奈須　亮耶）